



小島 憲道 (KOJIMA Norimichi)

東京大学 名誉教授
豊田理化学研究所 常勤フェロー

京都大学理学部化学科卒業、
同大学院博士後期課程修了。
(理学博士)。

NHK 放送科学基礎研究所・博士研究員、日本学術振興会・奨励研究員、京都大学教養部化学科・非常勤講師、神戸常盤短期大学衛生技術科・専任講師、京都大学理学部化学科・助手、同助教授、文部科学省・在外研究員(独・マールブルク大学)、東京大学大学院総合文化研究科/教養学部・教授、同研究科長・教養学部長、東京大学理事・副学長等を経て現職

専門は、物理と化学にまたがる物性化学の研究。具体的には遷移金属錯体を主体とした分子集合体の合成、構造、物性(光物性、磁性、伝導物性)の研究を行っている。特に、圧力や光で絶縁体を金属に変換する現象(遷移金属錯体における原子価転移)、光で磁石の性質を制御する現象(光磁性)、pH に応答してスピン状態が変化するスピントロニクス錯体の開発とこれを活用したプロトンの流れの可視化など、光・スピン・電荷の相乗効果による新しい物性現象の開拓研究を行っている。

主な著書に、“Magneto-Optics” 共編著(Springer, 2000), 『新しい磁気と光の科学』共編著(講談社サイエンティフィク, 2001)、“Inorganic Chromotropism” 共著(Kodansha/Springer, 2007), 『金属錯体の現代物性化学』共編著(三共出版, 2008), 『新版 現代物性化学の基礎—化学結合論によるアプローチ』共編著(講談社サイエンティフィク, 2010), “Research Advances in Magnetic Materials” 共著(Nova science publishers, 2013), “Mössbauer Spectroscopy: Applications in Chemistry, Biology and Nanotechnology” 共著(Wiley, 2013), “Nafion: Properties, Structure and Applications” 共著(Nova science publishers, 2016)など、他に原著論文多数。